I - B - 16

皮膚癢痒症の当帰飲子、黄連解毒湯 による漢方内服療法

近畿大学医学部皮膚科

大熊守也

【目的】 皮膚癢痒症は一般の抗ヒスタミン内服が思った程効果がなく、しかも内服による睡気を伴うことが多く、長期に治療が及び、しかも難治なことが多いので、漢方治療でよい方法を確立するためにこの検索を行った。

【材料、方法】 82例の皮膚癢痒患者を3つのグループ、即ちⅠ、ツムラ当帰飲子7.5g, ツムラ黄連解毒湯7.5g分3直後内服(35症例)、Ⅱ、前者のみ内服(37例)、Ⅲ、後者のみ(10例)、を投与、著効、有効、無効～増悪の3段階に分けて、問診により効果を判定した。

【結果】 Ⅰ群、著効24(69%)、有効8(23%)、無効・増悪3(9%)でⅡおよびⅢ群と統計的に有意差がありより優れていた。副作用は1例で下痢一例。drop outはⅠ、33 Ⅱ、8、Ⅲ1例であった。

【考按】 今まで、それぞれ単独投与例は報告されているが両者併用例は報告がなく、陽実、虚陰に用いる薬剤の組み合わせが問題であるが温清飲もそうであるのでさしつかえない。

【結論】 両者併用は皮膚癢痒症に優れた効果あり。